大学教育学会 第41回大会 玉川大学 2019年6月1日

卒業研究の研究 その4
社会科学系学科における成績評価方法

JSPS科研費（課題番号：17K18606）
発表資料はhttp://rpuc.ihe.tohoku.ac.jpから入手できます

© Takeshi KUSHIMOTO
IEHE/CIR @ Tohoku Univ.

1. これまでの経緯と先行研究

<u>卒業研究の研究</u>

- その1：割当単位数に注目して
  →4年制全体で平均5.0単位（225時間相当）
- その2：Capstone experiencesとの異同
  →卒研はカリキュラム上の位置付けが明確
- その3：学修成果との関連を中心に
  →学科の属性によって学修成果の認識は多様

<u>先行研究</u>

- 人文科学系学科（神田ほか 2015）
- 工学系中心の事例報告（小林・森本 2017など）

2. 目的と方法

目的

- 社会科学系学科に着目
- 卒業研究の成績評価方法の実態解明
- 学士課程教育の学修成果を包括的に評価する機会として機能しうるかを検証

方法

- 「卒業研究の成績評価方法に関する調査」
- 2018年9月~12月，264/1,044（25.6%）
- 学科系統：法学・政治学系，商学・経済学系，社会学系，その他
- 入学難度：下位（~35.0），中位，上位（45.1~）

3-1. 考慮する学修成果（図1）

表1-1 学科系統による違い*

	法・政	商・経	社会	ほか
伝わる発表ができる	47.6%	--33.1%	43.6%	47.9%
学術研究とは何かがわかる	+55.5%	32.5%	32.7%	30.6%
専門の知識・技能を活用できる	+52.4%	18.8%	18.2%	20.4%
批判的思考力を身につける	--33.0%	51.3%	63.6%	61.2%
研究において独創性を発揮する	+42.9%	16.2%	--9.1%	26.5%

表1-2 入学難度による違い*

	下位	中位	上位
伝わる文章が書ける	--50.0%	65.3%	69.1%
主体的な学習態度を身につける	--39.2%	56.0%	55.3%
学術研究とは何かがわかる	--23.3%	33.3%	+43.0%
研究において独創性を発揮する	12.3%	+26.7%	18.1%

*値は「考慮する」の割合．クロス表集計における残差分析で，当該セルの調整済み残差が絶対値2.0以上の属性がある項目のみ記載．

3-2. 成果を見るための課題（図2）

表2-1 学科系統による違い*

	法・政	商・経	社会	ほか
論文	$_{--}$40.0%	67.5%	$_{+}$80.0%	70.0%
口頭試問	11.1%	$_{--}$8.8%	$_{+}$29.6%	20.8%
口頭発表	$_{--}$0.0%	29.6%	$_{+}$48.1%	$_{+}$47.9%
ポスター発表	0.0%	$_{--}$0.0%	9.8%	$_{+}$12.8%

表2-2 入学難度による違い*

	下位	中位	上位
論文	62.7%	70.3%	71.9%
口頭試問	12.7%	20.0%	16.1%
口頭発表	40.6%	43.8%	$_{--}$23.9%
ポスター発表	4.4%	6.0%	4.4%

*値は「全学生に課している」の割合．クロス表集計における残差分析で，当該セルの調整済み残差が絶対値2.0以上の場合，その符号を示している．

3-3. 成績評価の方針（図3）

表3-1 学科系統による違い*

	法・政	商・経	社会	ほか
考慮する要素	13.6%	--11.2%	27.8%	+29.8%
学生の達成水準と成績の対応	19.0%	--4.3%	+20.4%	14.6%
成績の分布	4.8%	--1.7%	9.3%	6.3%

表3-2 入学難度による違い*

	下位	中位	上位
考慮する要素	17.8%	20.8%	18.1%
学生の達成水準と成績の対応	11.0%	12.7%	10.5%
成績の分布	2.7%	2.9%	7.3%

*値は「明文化された方針がある」の割合．クロス表集計における残差分析で，当該セルの調整済み残差が絶対値2.0以上の場合，その符号を示している．

4. 結論:包括的評価の可能性

<u>肯定的知見</u>

- 学生の進路に関わらず必要となる力を考慮
- 伝わる文章が書ける：96.7%
- 主体的な学習態度を身につける：92.6%
- 計画的にやり遂げる力がある：86.0%
- 伝わる発表ができる：78.1%

<u>否定的知見</u>

- 主体性や計画性の評価方法
- 考慮する成果と課題の不一致：e.g. 伝わる発表
- 評価者に一任されがちな成績評価の方針

参考文献

- 神田龍身・鶴間和幸・佐藤学・小林和男・篠田雅人・日下田岳史・谷村英洋・中世古貴彦・中野啓太（2015）『人文系学士課程教育における卒業研究がもたらす学習成果の検証』（学習院大学人文科学研究所人文叢書5）.
- 小林郁典・森本滋郎（2017）「卒業研究の教育的改善策とその効果」『大学教育研究ジャーナル』14：69-76.
- 黒河内利臣（2008）「大学教育における卒論の重要性に関する一考察：大学教育の学習効果を測定する卒論の機能について」『大学教育学会誌』30(1)：90-95.
- 串本剛（2018）「第21章 高度教養教育の評価：高年次共通科目と卒業研究に見る可能性」羽田貴史編『グローバル社会における高度教養教育を求めて』東北大学出版会：357-370.